

2012 年度前期 「在宅医療推進のための研修会への共催」 事業 完了報告書

テーマ 『聴くこと、語ることの本当の意味—バカボンパパに学ぶ臨床人間学—』

申請者 渡辺 康介

提出年月日 2013 年 1 月 25 日

報 告 書

開催日時 2013年1月12日(土) 18時30分～20時30分

会 場 ハートピア京都 3階大会議室
京都市中京区竹屋町通烏丸東入清水町

主催団体名 京都地域連携をすすめる会
代表者名 渡辺 康介 (渡辺西賀茂診療所 所長)

講演内容 『聴くこと、語ることの本当の意味—バカボンパパに学ぶ臨床人間学—』

講 師 京都大学大学院 人間・環境学研究所 佐藤 泰子 先生

座 長 神野医院 院長 神野 君夫

当日参加人数 240名 (医師・看護師・介護支援専門員・MSW・介護職など)

感 想 今回は、在宅医療や緩和医療にたずさわる医療・介護の多職種が日々の現場の中で経験し悩んでいるであろう、癌末期をはじめ様々な病気と闘いあるいは受容しようされている患者さんやご家族への寄り添い方について、研修する機会を設けた。

「人はなぜ悩み、そしてその悩みを受容していくための、こころのメカニズム」理論を学び、そのメカニズムをもとに「受容にたるまでを支えるために、私達はどのように寄り添えばいいのか」を学ぶ講演とした。(別紙添付)

当初200名の予定で参加募集を行ったが、結果240名の在宅医療や介護に携わる多職種の参加があった。講演時間は1時間30分としたが、その後の活発なディカッションがなされ、多くの参加者からもっと深く学ぶ機会を設けてほしい希望があった。

このことから、在宅医療や介護に携わるスタッフは、職種にかかわらず、患者さんやご家族にその方の望む居心地の良い場所で、その方らしい時間そして人生を過ごしていただくための、研修の機会や自己研鑽を望んでいることを再認識した。

今後も、在宅医療や介護に携わる多職種と一緒に学べる研修の機会を設け、一人でも沢山の在宅での生活を望まれる患者さんのご希望が叶えられるよう、地域での基盤づくり(仲間づくり)をしていきたい。

京都・地域連携をすすめる会

第7回研修会のご案内

謹啓 時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、当会の第7回研修会としまして、今回は「緩和医療と多職種連携におけるコミュニケーション」をテーマに下記の通り開催させて頂くこととなりました。

つきましては地域医療に従事されている医療職、介護職の皆様の幅広い、積極的なご参加を心よりお願い申し上げます。

医療法人 社団 都会 渡辺 康介

日時 2013年1月12日 (土) 18:30～ (受付開始18:00)

会場 ハートピア3F「大会議室」 TEL 075-222-1777
京都府京都市中京区竹屋町通烏丸東入清水町375

座長 神野医院 院長 神野 君夫 先生

I. 学術講演 「日本人の高脂血症新たな治療
～ω3脂肪酸製剤について～」
武田薬品工業株式会社 高橋 泰樹

II. 特別講演

『聴くこと、語ることの本当の意味 —バカボンパパに学ぶ臨床人間学—』

京都大学大学院 人間・環境学研究所
佐藤 泰子 先生

“今回は、緩和医療に関わる多くの人々が経験する「人はなぜ悩むのか、そしてそこから解放されていく手立てとは。

苦しんでいる人を支えるには、どのように寄り添ったらよいのか」というテーマについて、長年、ホスピスで終末患者に寄り添った経験から、「人はなぜ思い悩みそこから、どのようにして新しい1歩を踏み出すのか」をアニメキャラクターも登場するわかりやすい心理構造の図を使ってお話いただきます”

*参加ご希望の方は、参加申し込み書にご記入の上1月7日(月)までにFAXにてお申し込み下さい。

尚、この会は公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成により開催させていただきます。